

平成28年度補正予算（第3次）（防衛省所管）の概要

自衛隊の安定的な運用態勢の確保 . . . 1, 706億円

（1）弾道ミサイル攻撃への対応 . . . 331億円

北朝鮮は今年に入って、20発以上という過去に例を見ない頻度で弾道ミサイルを発射し、弾道ミサイル開発について、技術・運用能力の向上を追求。こうした北朝鮮の能力向上への対応は喫緊の課題であり、最大限早期に事業を推進。

- 能力向上型迎撃ミサイル（PAC-3 MSE）の導入
- イージス・システム搭載護衛艦の能力向上等
- 将来の弾道ミサイル迎撃態勢についての調査研究



PAC-3 MSEミサイル



「あたご」型護衛艦
(写真は護衛艦「あたご」)

（2）その他 . . . 1, 375億円

我が国周辺の安全保障環境や頻発する自然災害に鑑み、活動が増加する自衛隊の安定的な運用態勢を確保。

- 護衛艦、潜水艦、哨戒機 P-1 等の整備、救難飛行艇 US-2、情報収集用器材、災害対処に必要な装備品等の調達
- 装備品等の部品費・修理費の確保、庁舎の耐震対策等
- PKO活動等の派遣期間延長に係る経費 等

※ 以上の他、給与改定に伴い不足する自衛隊員の給与等として55億円を、災害により被災した施設等の復旧として8億円を計上。
これにより、防衛省計上額の総計は1, 769億円となる。

平成28年度補正予算(第3次)(防衛省所管)

1. 自衛隊の安定的な運用態勢の確保

1,706億円

| 主な内訳 | 数量 | 金額 |
|----------------------------------|-----------|-------|
| (1)弾道ミサイル攻撃への対応.....331億円 | | |
| 能力向上型迎撃ミサイル(PAC-3 MSE) | 2個群及び教育所要 | 0億円 |
| イージス・システム搭載護衛艦の能力向上等 | - | 330億円 |
| 将来の弾道ミサイル迎撃態勢についての調査研究 | - | 0.4億円 |
| (2)その他.....1,375億円 | | |
| 固定翼哨戒機(P-1) | 20機 | 362億円 |
| 26年度護衛艦 | 1隻 | 30億円 |
| 26年度潜水艦 | 1隻 | 35億円 |
| 27年度潜水艦 | 1隻 | 53億円 |
| 戦闘機(F-35A) | 8機 | 68億円 |
| 輸送機(C-2) | 2機 | 82億円 |
| 救難ヘリコプター(UH-60J) | 1機 | 32億円 |
| 戦闘機(F-15)の近代化改修 | 8機 | 18億円 |
| 早期警戒管制機(E-767)の能力向上 | 1機 | 92億円 |
| 救難飛行艇(US-2) | 1機 | 0億円 |
| 情報収集用器材 | - | 4億円 |
| 災害対処に必要な装備品等 | - | 167億円 |
| 装備品等の部品費・修理費 | - | 300億円 |
| 庁舎の耐震対策等 | - | 4.2億円 |
| UNMISSに係る経費 | - | 10億円 |
| 海賊対処行動に係る経費 | - | 24億円 |
| 為替レートの変動に伴い不足する外貨関連経費 | - | 68億円 |
| その他 | - | 25億円 |

※以上の他、給与改定に伴い不足する自衛隊員の給与等として55億円を、災害により被災した施設等の復旧として8億円を計上。

これにより、防衛省計上額の総計は1,769億円となる。

※能力向上型迎撃ミサイル(PAC-3 MSE)及び救難飛行艇(US-2)については、新規後年度負担による。

※四捨五入により、合計が符号しない場合がある。